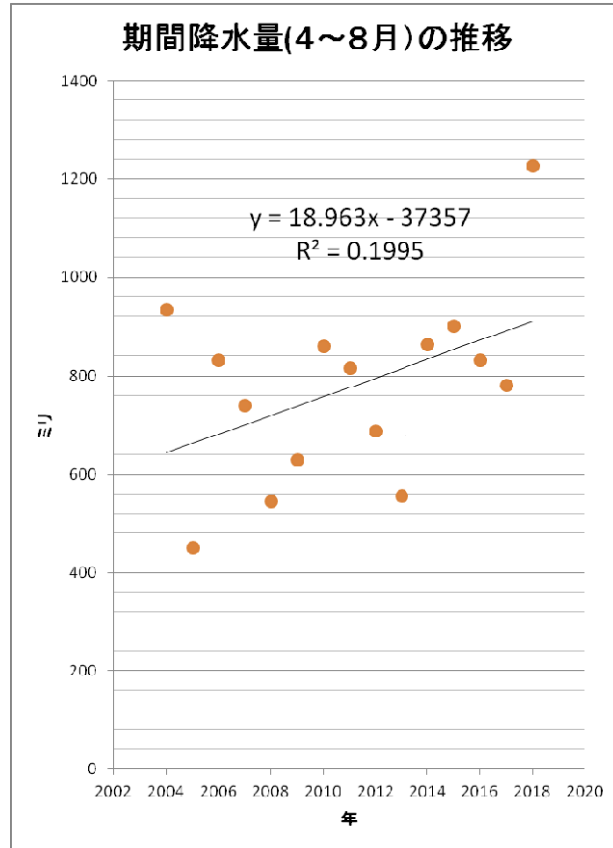
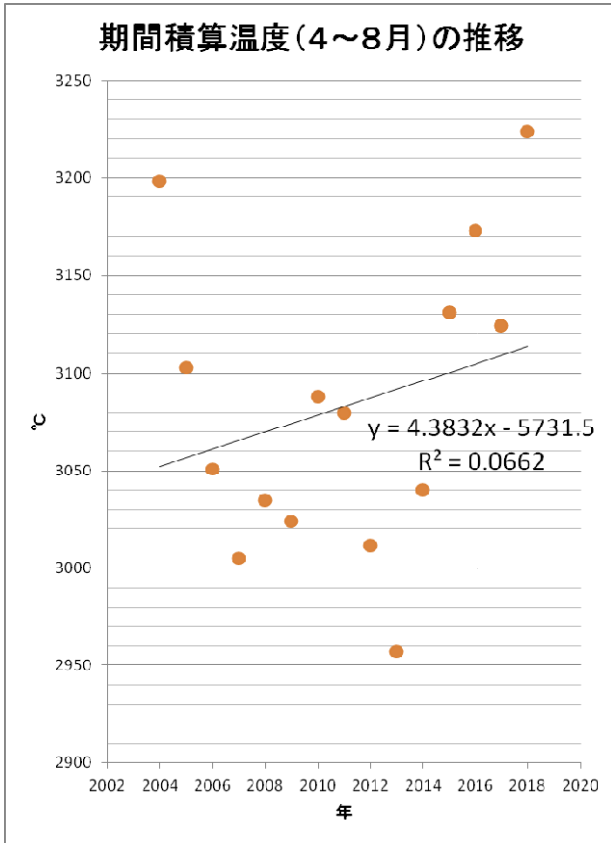


畦畔管理が今後さらに困難になる二つの要因 ～気候変動・農振農用地～

①気候変動～高温多雨化（市消防本部オープンデータ、2004～2018年の約5,500日分から分析）





畦畔管理に最も重要な4月から8月の気候は、2004年から2018年の間に、積算温度、降水量ともに増加してきている可能性があります。特に降水量はこの間に200ミリ以上増加している可能性が高く、この傾向が続くとさらに畦畔雑草の生育が旺盛になると予測されます。

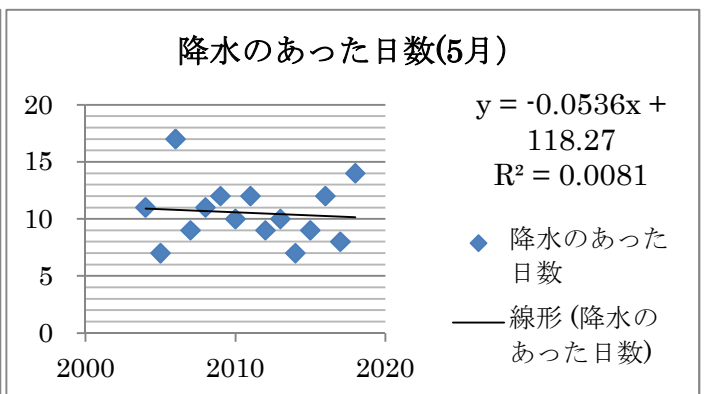
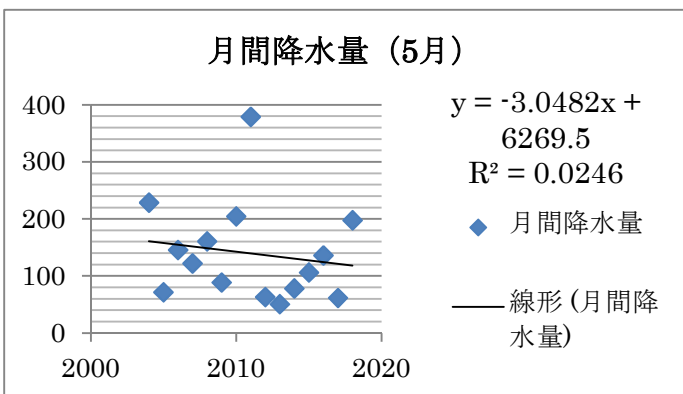
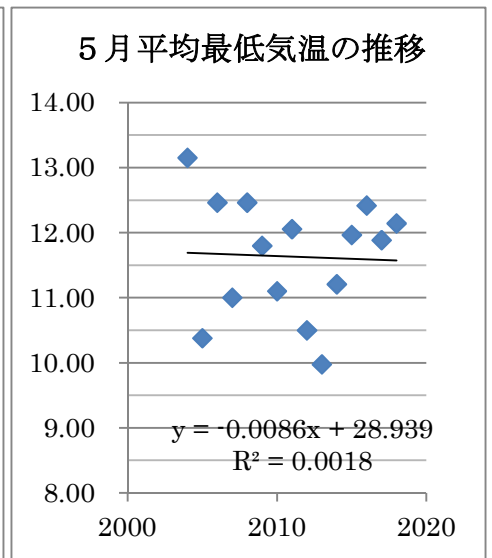
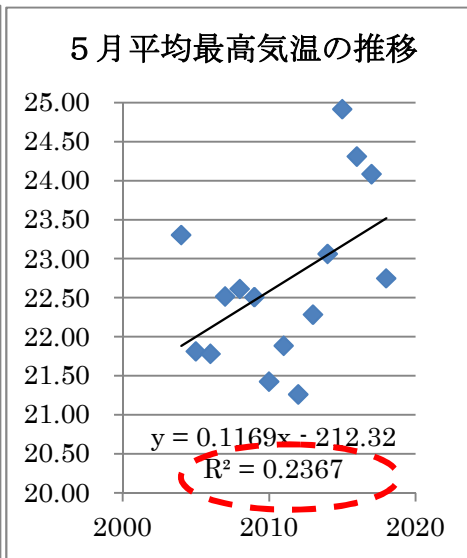
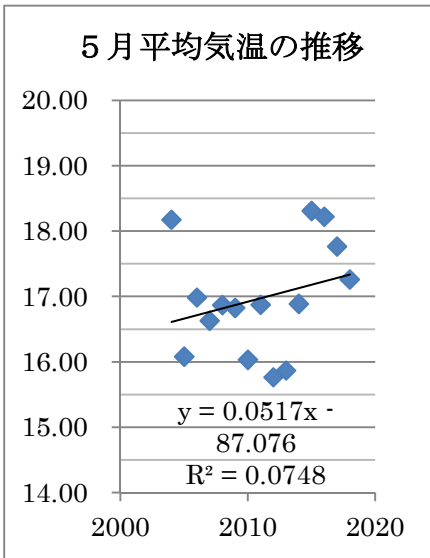
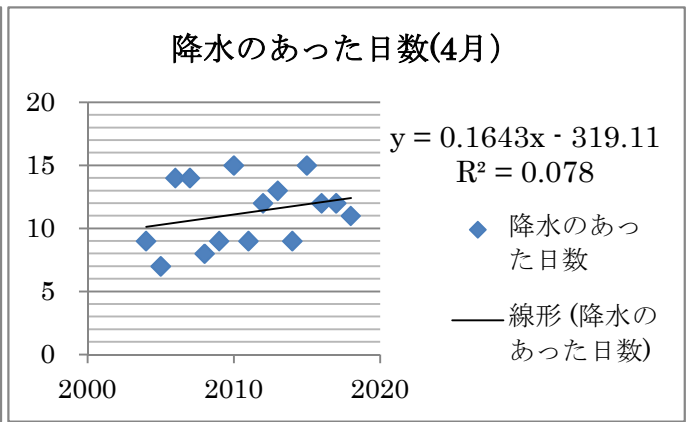
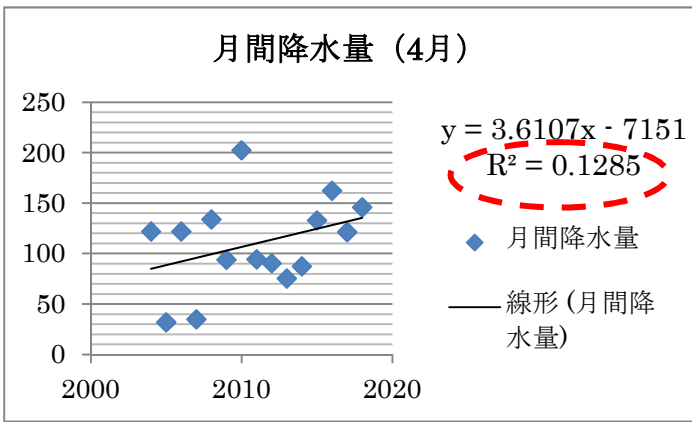
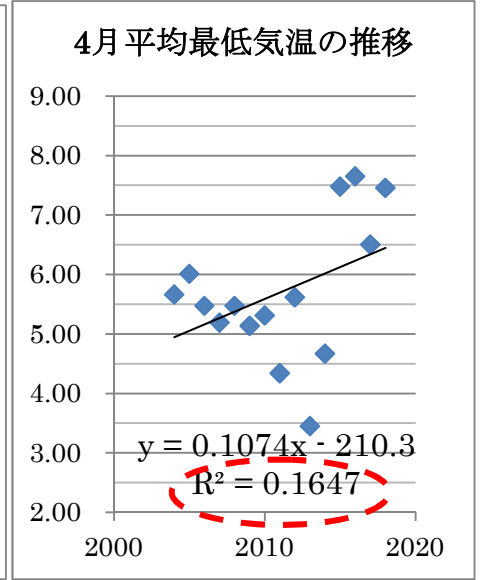
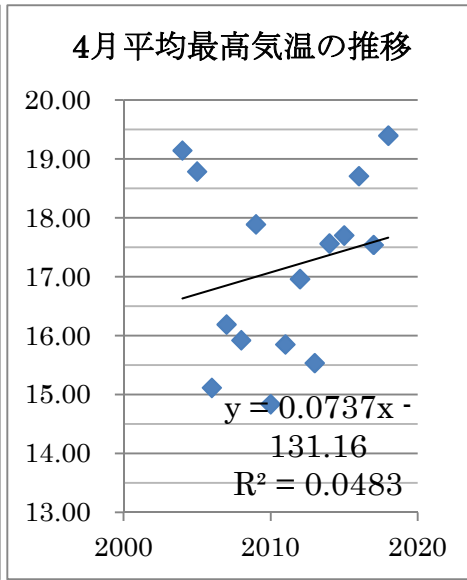
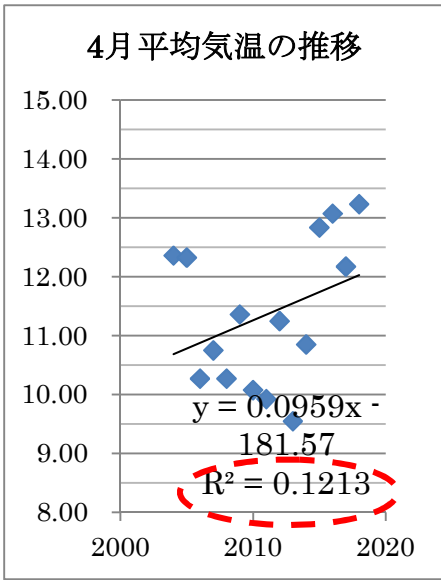


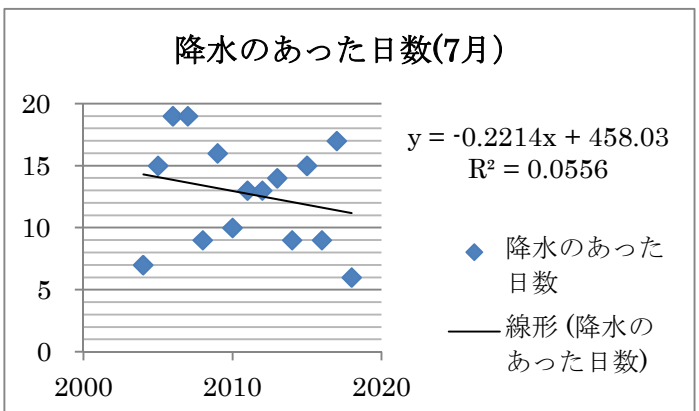
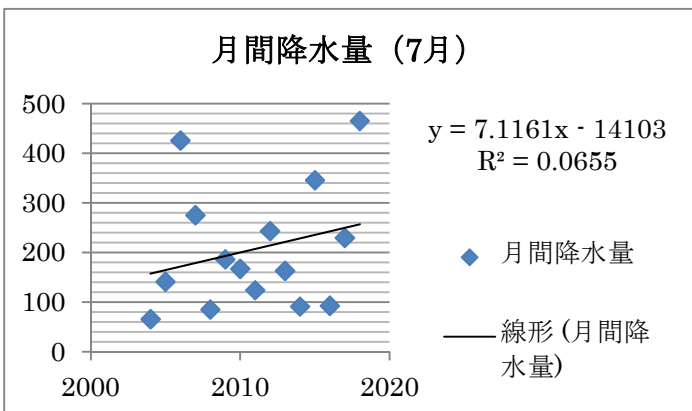
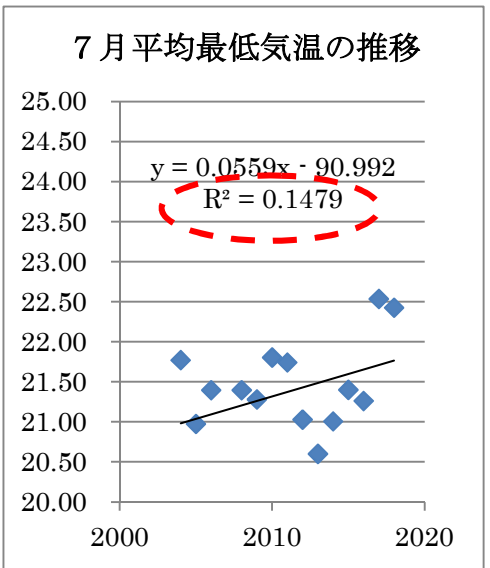
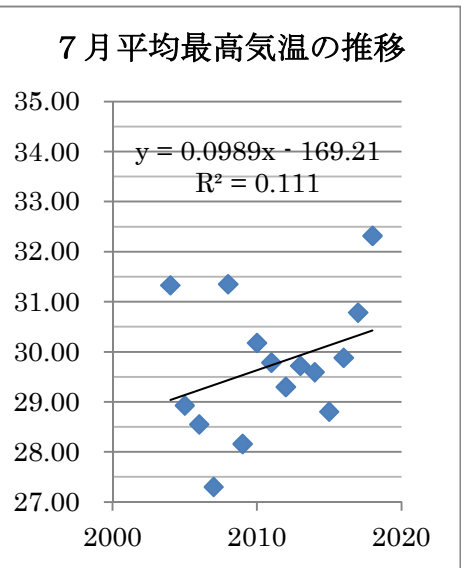
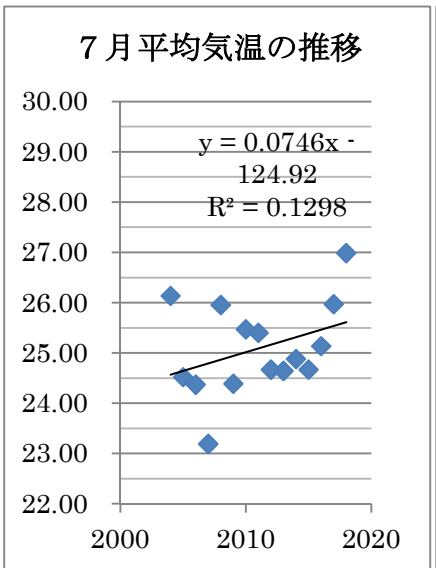
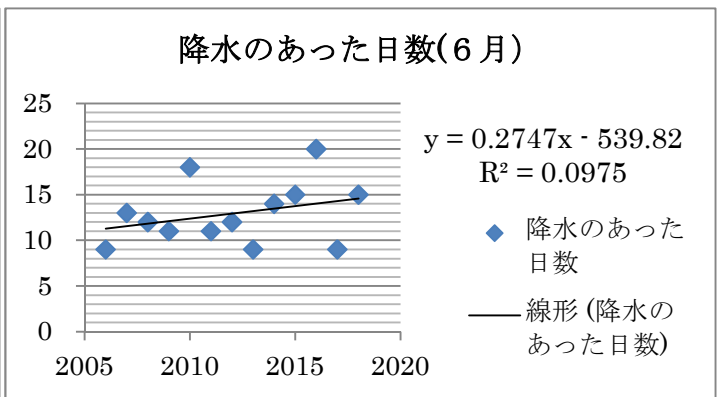
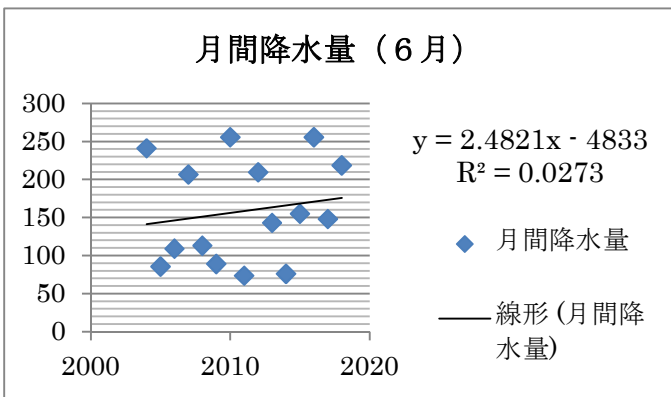
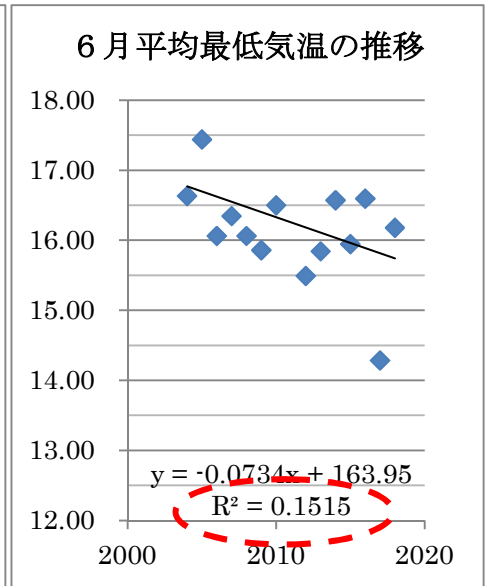
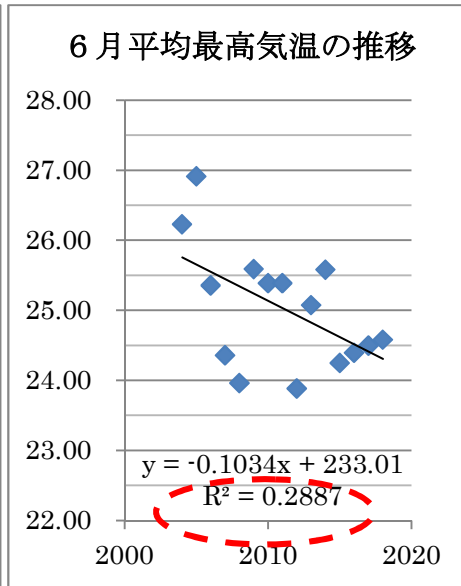
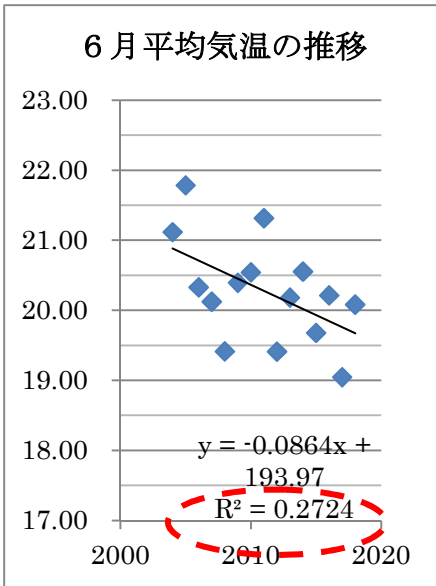
(参考) 月別分析

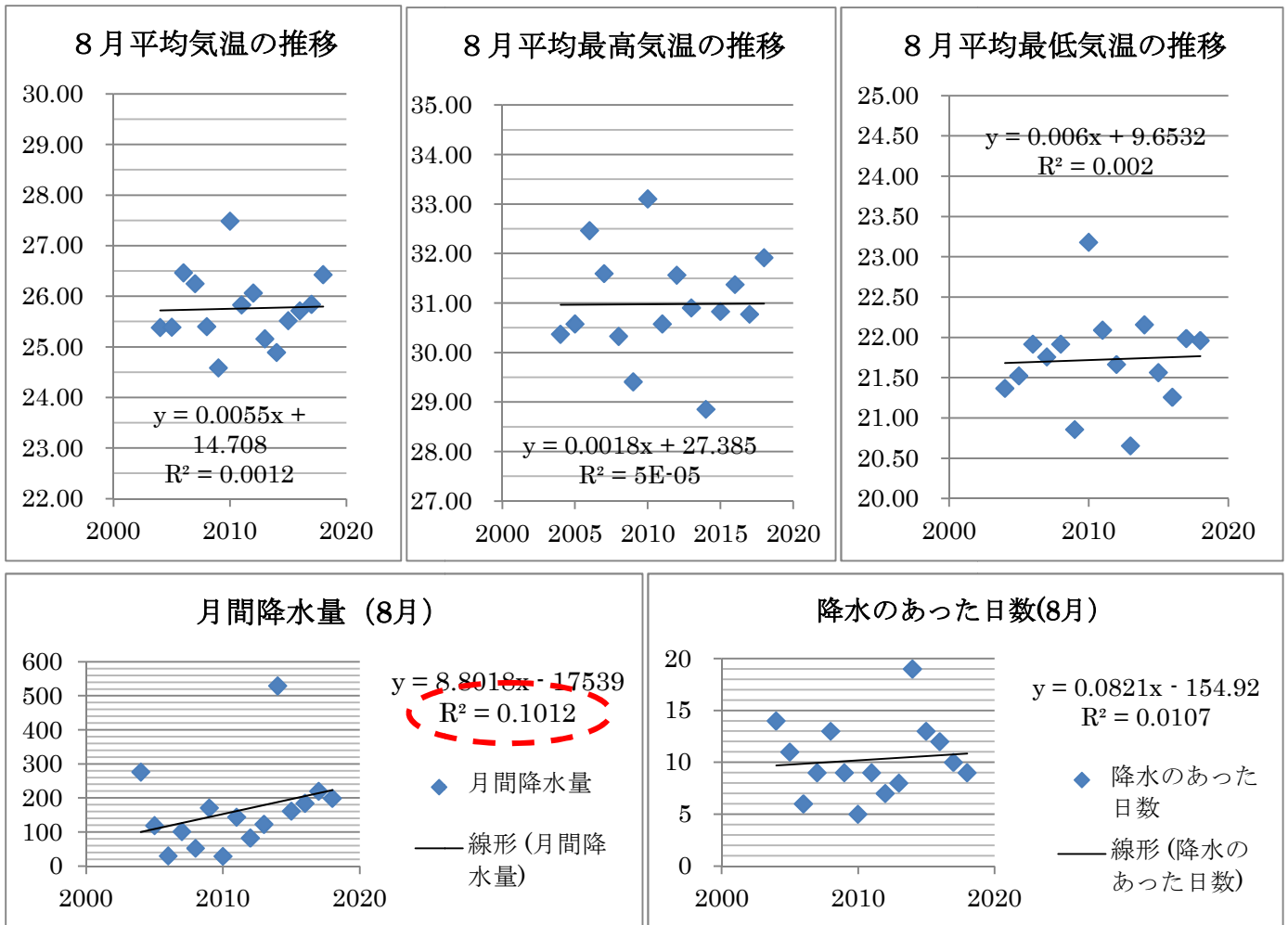
積算温度上昇の要因は、4月の最低気温の上昇と5月に最高気温が上昇し夏日が増えたことによるとみられます。降水量の増加は、4、7、8月の一回当たりの降雨量の増大が影響しています。

4～5月の気候変動は5月後半から6月上旬の、7月の気候変動は7月後半から8月上旬の畦畔雑草繁茂に寄与します。

気候変動の可能性	
4月	しっかり降る菜種梅雨に 最低気温上昇、一回当たりの降雨量の増加 
5月	初夏が前進 最高気温の上昇、期間中に1度以上上昇した可能性あり 
6月	寒い梅雨 最高気温・平均気温の低下、雨の降り方には大きな変化はみられない。
7月	梅雨後半の豪雨が恒常化 一回当たりの降雨量増大。最低気温の上昇。 
8月	台風の増加、朝夕の冷え込み弱くなる 台風の影響が増え一回の降雨量が増加。最低気温上昇の可能性あり。 







②農振農用地～自助努力で対応できない畦畔面積削減の壁

本市の畦畔面積は約 350 ha (田耕地面積 4150－田本地面積 3800/平成 30 年)であり、畦畔率は 8.4%で全国の 5.5%の 1.5 倍と高くなっています。また、現実の畦畔は傾斜があり、実際の表面積は、420～450 ha (350 ha×1.2～1.3) と推定されます。

一方、これを管理する農家人口の状況は、ここ 20 年で 1/3 まで減少してしまっています (センサス H12、19,527 人→H27、6,778 人)。

このため、各農家は、増大する耕地管理量や畦畔管理量を減らすために自助努力として、経営耕地面積 (田) を減少させ管理の重点化を図られています (センサス H12、3,984 ha→H27、3,081 ha)。この管理の重点化の基本的流れは、白地を諦めて圃場整備された農振農用地に注力するものです。

本市の農振農用地 (田) 面積は、概ね 3,400 ha で推移してきており。センサスのデータが現実の面積と少し異なることを考慮しても、経営耕地面積は自助努力でこれ以上減らすことのできない農振農用地規制の壁まで来ていると考えられます。

